

な か ま

発行
佐倉市立中央公民館
なかま編集係

〒285-0025
佐倉市鍋木町 198-3
電話 (043) 485-1801

2 ページ	「天障院篤姫」と「佐倉」	石川節子	自然公園で田んぼ	亀川 勇
3 ページ	親父の小言	高橋克俊	牛肉を食わねば開化不進奴	永見 一

新春に寄せて

佐倉市長 藤 和雄



れ一年間動物の大将にしてやろう」とお触れを出しました。牛は「足が遅いから」と暗いうちに出発しました。牛小屋の天井でこれを見ていたねずみは、ほんと背中に飛び乗りました。牛は、そんなこととは知らず自分が一番だと思っていました。が、開門と同時に自分の背中からねずみが飛び降り、ちよろちよろと走って一番になりました。しまいました。

「子年」の「ねずみ」には、すぐに子ねずみが増え成長することから「子孫繁栄」の意味があるといわれています。また「行動力と財」が特徴とされています。

今年、干支の「ねずみ」にあやかつて、佐倉市と市民のみなさまが、ますます繁栄できるよう、市民のみなさまと手をとって進んでまいりたいと思います。

最後に、みなさまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。新年のあいさつとさせていただきます。

『なかま』をご愛読のみなさま、新年あけましておめでとうございます。健やかに新春をお迎えになられたことと心よりお慶び申し上げます。

私の趣味は小さい頃に始めた書道です。今年の干支は、「子」(ね)、 「ねずみ」ということで、新たな気持ちで「子」

の字を書かせて頂きました。十二支は「ねずみ」に始まります。それは以下のような民話に由来するといわれています。

昔々の大昔のある年の暮れのこと、神様が動物たちに「元日の朝、新年の挨拶に来なさい。一番早く来たものから十二番目のものまでは、順にそれぞれ

「天障院篤姫」と「佐倉」

皆さんは日曜夜八時より放映されるNHK大河ドラマを見ていますか。今年是非見て下さい。といっても私はNHKの関係者ではありません。

今年には宮尾登美子原作「天障院篤姫」です。幕末、政略結婚により、薩摩島津家より第十三代將軍徳川家定に嫁いだ女性の物語です。篤姫様は島津家の分家の一つである今和泉家出身で、二十一歳のとき將軍の御台所となりました。

私の卒業した小学校は今和泉家の別邸だった所で、当時は小説にも書かれている校庭の大きな黒松やクログネモチ、鹿児島湾（地元では錦江湾）に面した松林や石垣なども残っていました。四十年ほど前、新校舎に建て替えられるとき、玄関前に大きく枝を広げた黒松は切られてしまいました。樹齢は三百年ぐら이었다

そうで、篤姫様もきつと御覽になつたと思います。輿入れにはいろいろないきさつもあり、それは大河ドラマで語られると思いますが、この佐倉とも少なからざるご縁があります。

堀田正睦は以前「正篤」と名乗っていました。篤姫様が御台所になられるため改名されたとのこと。もう一つ佐倉とのかかわりは佐倉藩十五代藩主堀田正亮が老中首座のとき、幕府の「お手伝い大名」制度により薩摩藩に木曾川護岸工事を命ぜられたことです。そのため薩摩藩は多くの犠牲者と莫大な借金を背負うことになりました。

今でも「薩摩義士」として語り継がれています。その関係から篤姫様の御縁談になつたと聞いています。佐倉に住み始めた頃、私にとって何の縁もない所と思っていました。佐倉の歴史にふれるうちに少し身近に感じられるようになり、佐倉は私の「第二の故郷」となりました。

（大蛇町 石川節子）

自然公園で田んぼ

仮称西部自然公園の畔田川下流域で平成十九年四月から市と市民が月一回ワークショップで公園の整備を行っている。内容は草原の草刈、湿地や畔田川の手入れなどである。作業のあと皆で自然観察をするが整備により生物が多様化しているようだ。

ワークショップのメンバーのうち四人は数年前から青菅で、冬も水を張り耕さない農法で稲作の経験がある。元は田んぼだったこの草原の一部で稲作をしたいと提案し、賛同する人も加わり、経験豊富なIさんがリーダーになり、稲作グループとして八人で復田を始めた。

田植えまで期間がなく、やっと百坪ほどを復田して田植えをした。水は将来灌漑水路ができる予定だが、現在はそばの畔田川からポンプで揚げている。

九月に稲刈りをして天日で干し、近くの農家で脱穀して貰った。無農薬・無肥料で、期待より少なかったが約五十六kgの白米が収穫できた。来年は一歩を目標に復田している。

田んぼには一年目で蛙や泥鰌、イナゴ、トンボなどが見られた。しかしその糞が肥料となるイトミミズはまだいない。雑草防止に冬にも水を張るから渡り鳥も来るかもしれない。なおワークショップでは里山グループもでき、枯れ木を除き里山らしくなってきた。

ところで畑の市民農園はあるが田んぼはない。環境を整えれば市民や近郊の人もここで稲作を楽しめるのではないだろうか。私たちのように耕さなければ誰でも稲作ができる。田んぼが公園の景観の一つになり、また生物の多様化に役立てばうれしい。

（中志津 亀川 勇）

親父の小言

最近のニューズに不祥事が多くなった。こう思うのはマスコミの反復効果だけではなく、不祥事の実数が増えていることなのでしょう。社会生活に欠かせない正義感や羞恥心等は、成長する環境が影響すると学んだ記憶があるから、こんな紙面や画面を見ていると、この人たちの生い立ちを疑ってしまう。

「親父の小言」は、小さい時から家庭教育として耳にたこが出来るほど聞いてきた。それが自分の生き様を作り、生き方の規範となってきたことは事実である。しかし、時間とともに風化して忘れていくことも事実で、不祥事を見聞するたびに思い出す今日この頃である。

不祥事と関係なく、活字でもう一度したためて自戒としてみたい。皆さんも茶の間の話題にどうぞ・・・。

- 一、朝は機嫌よくしろ
- 一、人には腹を立てるな
- 一、家業には精を出せ
- 一、働いて儲けて使え
- 一、借りては使うな
- 一、ばくちには決して打つな
- 一、大酒は飲むな
- 一、女房は早くもて
- 一、産前産後は大切にしろ
- 一、家内は笑って暮らせ
- 一、戸締りに気をつけろ
- 一、火は粗末にするな
- 一、年寄りはいたわれ
- 一、神仏はよく拝め
- 一、年忌法事をしろ
- 一、義理は欠かすな
- 一、恩は遠くから返せ
- 一、怪我と災いは恥と思え
- 一、万事に気を配れ

まさに含蓄があり、いまの時代にもピタリの小言ばかりである。最近の親父さんたちは、「小言」を言っているでしょうか。それとも、未だいわれている？

(白銀 高橋克俊)

牛肉を食わねば

ひらけぬやつ
開化不進奴

木枯らしの吹く寒い夜は鍋を囲んで熱燗の一杯が最高。

鍋といえど鍋奉行おとうさんの出番で、日頃料理など無関心だがこの日ばかりはあれこれ蘆蓄をたれながら家の者に手出しをさせず、いそいそと世話をやく姿が想像できます。

鍋といつても湯豆腐から始まりその種類は、数百を数えるがなんといつても極めつきは、「すき焼鍋」である。日本人はいつから牛肉を食べるようになったのか、一般には明治維新以降のようである。指導者はにわかには西洋文明をとり入れ、文明開化の名のもとに旧来の習慣を破つていき、

福沢諭吉ら文化人は、長年仏教の戒律によつて忌み嫌われしてきた食肉を大いに勧めるキヤンペーンを張り、慶応義塾の学生たちは彼らに感化されてさかんに牛鍋屋に通つてい

たそうです。

経済学者の河上肇は大正初期の留学中、パリの日本人画家宅で島崎藤村と一緒にすき焼をご馳走になったことをのちのちまで思い出していました。当時からすでに懐かしい日本の味として異国に暮らす人々たちからも愛されていました。

先年米国でスキヤキソングという曲が流行ったことを思い出します。これは坂本九の唄った「上を向いて歩こう」の曲で、スキヤキのあまりのおいしさに食べすぎ下を向いて歩くと苦しく上を向いてないと戻ってしまうので、これからスキヤキソングが始まったといわれています。

明治五年正月、天皇が初めて牛肉なるものを召し上がり、これが大ニュースとして伝えられ、ハイカラな人ばかりでなく一般庶民にも文明開化の象徴として人気を博するようになりました。

(上志津 永見 一)

1月の黒板

佐倉市民カレッジ公開講演会のお知らせ

平成20年1月9日(水) 午前10時00分～11時50分

「源氏物語へのいざない」

東京情報大学教授 松田 喜好 氏

【場 所】 中央公民館大ホール 【定 員】 先着100名 【費 用】 無料

【お申し込み・問い合わせ】 1月5日以降 中央公民館へお電話で 485-1801

『なかま』原稿募集のお知らせ

『なかま』の2・3面は、市内の皆様の投稿によって作られています。

原稿は随時募集しています。

【原稿規定】 字数 650字(13字×50行)以内(中央公民館に専用原稿用紙があります)

ワープロによる原稿(縦書き)でも結構です。

内容 随筆...日常の出来事など自由にお書きください。

問い合わせ 佐倉市立中央公民館 (第2・第4月曜日は休館日です)

URL <http://www.city.sakura.lg.jp/kominkan/cyuou/index.htm>

わくら道

暮らしにくい世相であれば
なおのこと、たとえ大平の世
の中であつても福の神を崇め
心たのしくゆたかに生活でき
るよう祈念することは、古く
から人びとの間に持ち伝えら
れている心情です。

新春その年の幸福を願つて
七福神を巡拝する信仰行事の
形ができあがつたのは、町人
文化が深く根を降ろした江戸

時代の後期になつてからとい
われます。

当地佐倉にも六ヶ寺、一神
社、妙隆寺大黒天、大聖院大
黒天、布袋尊、松林寺、甚大
寺の毘沙門天、麻賀多神社恵
比寿、福祿寿、宗円寺寿老人、
嶺南寺弁財天、七福神を祀る
社寺を巡りながら、五穀豊穰、
招福、開運、長寿、子孫繁栄
を祈り、宝船にのせて江戸の
風流人らしい発想で、春風に
吹かれてゆつくり歩いて約二
時間の散策を試みませんか。

あとき



明けましておめでとうござ
います。澄んだ冷気の中、孫
達と近所の神社に詣りました。
竹箒で掃き清められた境内の
庭は気持ちよく、身も心もす
がすがしくなる思いが致しま
した。社会と家族の平穩無事
に加え、自身の生活が、より
豊かで楽しくなりますように
などと、身勝手なお願ひまで
してしまいました。

ところで、冬花壇に彩りを

期待して作った寄せ植えに、
早くも春の兆しです。一番乗
りはクロッカス。既にぶつ々
り太ったつぼみまで抱いてい
ます。花色だけを紫で統一し、
開花の時期も、立ち姿も、草
丈も、それぞれに異なる五種
類の球根を、深鉢にいっぱい
埋め込んであるのです。次々
と春を運んでくれるに違いあ
りません。

今年も『なかま』をどうぞ
よろしく願ひ致します。様々
な見地からのご投稿も、心よ
りお待ちしております。

(松山)